

# スイートコーン

担当者 技能研究員 藤井 翔馬

試験課題名	品種系統選定試験（直播）
目的	本町に適した多収・高品質の品種を選定する
期待される成果	地域適応品種を比較、高品質で生産性の向上を図る
連携機関	上川農業改良普及センター士別支所、 JA北ひびき和寒基幹支所

## 1 供試品種・資材

品種（全て86）

イエロー

※ 恵 味（清水） ミエルコーン（雪印）  
シュガーピーク（中原） ゴールドラッシュ（サカタ）

バイカラー

ゆめのコーン（サカタ）

※基準品種

## 2 耕種概要

土 壤 ～ 灰色低地土（埴壤土）

前 作 ～ かぼちゃ

播 種 日 ～ 6月2日 収 穫 日 ～ 8月26日

栽 植 密 度 ～ 畦幅100cm・株間35cm・2条植え 3360株/10a

## 3 土壌診断結果と施肥量

### （1）土壌診断結果

(mg/100g)

pH	EC	P205	K20	MgO	CaO	熱水抽出N
6.08	0.085	86.0	48.5	48.4	579.2	8.8

### （2）土改資材と堆肥（kg/10a）

堆 肥 ～ 2,000kg

### （3）施肥内容（成分量/％）

基 肥 ～ 硫酸アンモニウム（21－0－0） 6月1日 作条施肥

基 肥 ～ 硫酸加里（0－0－50） 6月1日 作条施肥

分 肥 ～ 硫酸アンモニウム（21－0－0） 7月1日 側条施肥

### （4）肥料の要素量

(kg/10a)

			N	P	K
基 肥	硫酸アンモニア	24kg	5	－	－
基 肥	硫酸カリ	14kg	－	－	7
分 肥	硫酸アンモニア	19kg	4	－	－
合 計			9	－	7

## 4 調査項目

生 育 調 査 ～ 播種日・発芽期・収穫期・雄穂抽出期・絹糸抽出期・生育日数・桿長

収 量 調 査 ～ 規格内雌穂重・規格内剥皮雌穂重・規格内訳

特 性 調 査 ～ 雌穂径・穂心長・雌穂長・食味試験・糖度（Brix）

## 5 生育・収量調査

項目	品種	恵味	ゆめのコーン	ゴールドラッシュ	シュガーピーク	ミエルコーン	
播種日		6月2日					
発芽期		6月8日	6月8日	6月8日	6月9日	6月8日	
収穫日		8月26日					
生育日数		84日					
雄穂抽出期		7月28日	7月28日	7月28日	7月29日	7月28日	
絹糸抽出期		8月3日	8月2日	8月4日	8月5日	8月4日	
生育調査(収穫日)	桿長(m)	1.7	1.56	1.44	1.83	1.5	
有効雌穂 (10a当たり)	穂数(本)	3,360					
	総重量(kg)	1,313	1,300	1,340	1,540	1,349	
	調整重(kg)	1,110	1,101	1,141	1,210	1,047	
	調整率(%)	84%	84%	85%	78%	78%	
	規格内雌穂重(g)	391.1	386.9	398.8	458.6	401.6	
	規格内訳 (%)	2L	0	6	9	59	10
		L	41	25	38	31	38
M		59	69	53	10	52	
	規格内剥皮雌穂重(g)	330.6	327.8	339.8	360.2	311.9	

## 6 特性調査

項目	品種	恵味	ゆめのコーン	ゴールドラッシュ	シュガーピーク	ミエルコーン
雌穂径(mm)		51.2	52.2	52.1	52.6	50.2
穂芯長(cm)		21.2	20.8	20.8	22.6	21.1
雌穂長(cm)		20.9	19.4	20.2	21.9	20.4
糖度(Brix)		17.7	17	17.7	19.3	16.4

### 6.1 食味試験

項目	品種	恵味	ゆめのコーン	ゴールドラッシュ	シュガーピーク	ミエルコーン
甘さ(5甘~1渋)		3	2.8	2.6	4.3	3.1
硬さ(5軟~1硬)		3	3.5	3.3	3.2	3
総合(5良~1否)		3	3.1	3	4.5	2.5

## 7 防除歴

殺虫剤			殺菌剤		
6月30日	ダイアジノン粒剤5	4kg/10a	散布無し		
8月6日	オルトラン水和剤	1000倍			

## 8 試験結果概要

### (1) 生育経過

6月2日に全品種の播種を行った。6月8日にほとんどの品種が発芽し、シュガーピークのみ9日に発芽期を迎えた。雄穂抽出期は7月28日に迎え、シュガーピークのみ29日に迎えた。絹糸抽出期は8月2日~5日の間で迎えた。収穫は全品種を8月26日に行った。

## (2) 収量調査

総穂数は10aあたり3360本であった。総重量は基準値の恵味が1313kgであり、調整重は1110kgであった。最も総重量の重いシュガーピークは1540kgであった。ミエルコーンは調整重がやや少なく1047kgであった。

桿長は基準値の恵味が1.7m、最も大きいシュガーピークが1.83m、最も小さいゴールドラッシュが1.44mであった。シュガーピークは草丈も長く他品種に比べて目立っていた。

規格別の内訳では、シュガーピークは半数以上が2Lサイズで大きく重いものが多かった。恵味はLとMサイズが中心であり、あまり大きさにばらつきがなかった。

倒伏株については、今年は風の強い日が少なく、ほとんど見られなかった。

## (3) 特性調査

基準値の恵味は、雌穂径・穂心長・雌穂長、の順にそれぞれ、51.2mm・21.2cm・20.9cmであった。シュガーピークは全ての調査項目が最も大きな数値であり、それぞれ、52.6mm・22.6cm・21.9cmであった。ミエルコーンは全体的にやや小さく、それぞれ50.2mm、21.1cm、20.4cmであった。

## (4) 考察

今年度は日持ちがよく、道外の出荷にも適している「ゆめのコーン」や、糖度が高く甘い「シュガーピーク」を中心に栽培した。発芽期以降は晴天が続き、局所的にしか雨の降らない天候であったが、雨が降るたびに草丈が急激に伸び、無事に収穫日を迎えることが出来た。

食味試験では、シュガーピークこそ最も高評価ではあったものの、どの品種も糖度が比較的高く、食感も良好であり、各項目は僅差な結果となった。

反省点としては、害虫であるネキリムシへの対策がやや遅れてしまったことが挙げられる。次年度では、圃場の作物をより注意深く観察し、異変を素早く察知することで収量増加を図りたい。また、8月26日に全ての品種を収穫したが、品種によって生育状況に若干の差があり、恵味は先端の実が外皮から出てしまっているものがある。品種間の生育の違いに対応して、収穫日を見定めることも、今後の課題として検討したい。

今回の結果から、今後期待出来る品種として「ゆめのコーン」と「シュガーピーク」を推したい。また「ゴールドラッシュ」は粒皮が柔らかく、生で食べることも可能である。品種ごとの性質や特性を理解し、それらを活かすことが出来る環境を見定めることが、出荷先を選択する際の判断材料になると感じた。